

# 2024年 東北大学前期日程試験【英語】問題分析

## ① 今年（2024）の傾向

総評・講評（大問毎に）

### 【総評】

大問は4問構成で、長文読解が2問、会話文に基づく英問英答が1問、記号選択式と記述式を含む英作文が1問である。大問の構成や各大問の設問は昨年度をほぼ踏襲している。本文の分量は大問Ⅰが減少した。また、大問Ⅲは意見論述英作文の際に参照する表形式の資料がなくなった。全体を通して設問に関わる語句は基本的なものが多く、記述解答の分量も試験時間に比して多すぎるということないので、長文読解・文法語法・英作文をバランス良く練習してきた受験生にとっては取り組みやすい問題だと言える。

### 【個別分析設問Ⅰ】 長文読解

出典はMatthew Shindell, *For the Love of Mars: A Human History of the Red Planet.* 現代と古代の宇宙観や宇宙についての知識の異同を踏まえつつ、両者の違いを理解するためには知識量の差ではなく現代と古代の宇宙に対する問い合わせの違いに注目する必要があることを論じている文章を読解し、解答する。この本文の趣旨は大問Ⅳの下線部(B)「知識より『理解』の方が大切」にも通底する考え方である。

問1 文法的誤りを含む箇所を2つ選ぶ。（イ）はthemが不要。answerの目的語these simple questionsは主語の位置に移動している。（ク）はappearedの後に前置詞のtoが必要。

問2 文挿入問題。[①]当該段落の内容が現在に至るまでの宇宙に関する様々な発見を述べていることから（イ）「〔現代の〕私たちは古代の人々よりも多くのことを知っていると言いたくなる誘惑に駆られる」。[②]直後の文で「人間の脳はこの数千年間全くと言っていいほど変わっていない」とあり、その後の内容も現代人と古代の人々の知性が同等であることを示していることから（ア）「しかし、私たちは私たち以前の人々とそれほど変わらない」。[③]当該段落では古代の人々が空（宇宙）を観察していたことを示す様々な遺跡・遺物が挙げら

れていることから、（ウ）「古代の人々が夜空を観察し、その規則性を見抜いていたことを私たちは知っている」。

- 問3 英文和訳。設問で中身を明確にするよう指示されている2つの代名詞を適切に訳す必要がある。theyが指すのは2行上のpreliterate societies 「文字を持たない社会（の人々）」。thoseは下線部(A)の中のquestions。構文としてはthat節内の主語がwhatever questions...heavens、動詞がwereになっており、those...todayとは非常に異なっていた(very different from)ことを示す文である点を正確に訳出する。また、ask [A] of [B]は「[A]を[B]に尋ねる」。
- 問4 下線部説明。下線部(B)のthisはdoの目的語であること、また下線部直後の分詞構文examining...と意味の上で繋がる内容であることを手がかりに直前の箇所から動詞+αのかたちになっている箇所を探す。これに該当するのは直前の文のby asking...。
- 問5 内容合致問題。（ア）「ストーンヘンジは人々が集まり儀式を行う場所であったことが証拠によって示されている」は第6段落the evidence remains convincing that...に合致。（オ）「私たちは粒子や電磁気の波長を探知し測定することのできる道具を今では持っている」は第4段落These tools have allowed us to...に合致。

#### 【個別分析設問Ⅱ】 長文読解

出典は Michael Gerson, Stephanie Summers and Katie Thompson, *Unleashing Opportunity: Why Escaping Poverty Requires a Shared Vision of Justice*。アメリカ社会における教育格差についての文章。

- 問1 空文補充問題3題。[①]がthose jobsをヒントに(イ)だと判断できれば問題ないが、この空所は段落末で後に続く内容で判断しづらいので、保留しておいて[②]、[③]解答後に埋めてもよい。[②]は直後に具体的な数値が続いているのでstatisticsの内容と判断し(ウ)。[③]はTheyが誰かを考えれば、(ア)のlow-income studentsだとわかる。

- 問2 下線部和訳問題。never + 比較級なので「より～なことは一度もない」。時制

が現在完了なので、「(今よりも) ~なことはなかった」。be essential to A 「Aに欠かせない・不可欠な」。

- 問3 下線部が意味する内容の説明問題。下線部の直訳は「経済的流動性」となるが、下線部の次の文からがその説明に当たる。具体的な数値を挙げることもできるが、解答欄が3行なので簡潔にまとめればよい。
- 問4 語句整序問題。whether S' V'をどのように使うかを考え、question<sub>[v]</sub> whether S' V'<sub>[0]</sub> のつながりに気づけば問題ない。並べ替えた英文はquestion<sub>(エ)</sub> whether<sub>(イ)</sub> they<sub>(オ)</sub> belong<sub>(ア)</sub> there<sub>(カ)</sub>となる。
- 問5 下線部和訳問題。Facingからmakingまでが分詞構文。「～に直面し(て)」と訳せばよい。主節はthese students<sub>[s]</sub> feel<sub>[v]</sub> anxious<sub>[c]</sub>でabout以降は何に関して不安を感じているかの内容。fail to do「～しない・できない」、live up to A「A(期待など)に応える」などの語句を正確に訳す。who以降はmany peopleを修飾する形容詞節。help 0原形で「0が～するのを援助・支援する」。where they areはここでは場所というよりは自分が今いる状態・立場を表している。
- 問6 本文全体のタイトルを選択する問題。全体の趣旨としては、貧富の格差による学位の取得格差なので(ウ)アメリカ社会の卒業格差を選ぶ。

### 【個別分析設問Ⅲ】 会話文+意見論述英作文

留学生向けの日本語授業の教師と学生の会話を読んだ上で、語句の空所補充問題と意見論述英作文に解答する。

- 1) 語句の空所補充問題。①は(B) take into consideration。「～を考慮にいれる」。②は(A) at least。「少なくとも」。③は(C) In addition。「加えて」「さらに」。④は(D) not nearly。原級比較as...asの直前に置かれて「～と決して同じ程度ではない」「～ほどではない」。⑤は(B) get into。「～を身につける」「～に関わる」。
- 2) 意見論述英作文。テーマは「日本語を外国語として学習することを日本政府が促進することは重要であるという意見に賛成か」。解答の冒頭をYes/Noで初めて賛否を明らかにした上で、その理由を2つ、80語程度の英語で述べる。立場

としては賛否どちらを選択しても構わないが、本文の趣旨から考えればYesの立場の方が解答は作りやすいだろう。理由を2つ挙げなければならないので、内容が重複しないように観点や論じる分野を分ける必要がある。「経済」の観点から労働力や消費者としての日本語話者を増やす必要性を述べたり、「文化」の観点から日本文化の愛好者を増やす意義を述べたりするとよい。

#### 【個別分析設問IV】 語句整序+和文英訳

- (A) 整序問題。文構造はWhat V' ~ [S] is[V] the close connection (between ...) [C]となる。最初はthe developmentかits developmentか判断できないが、the close connectionはtheを用いることになるのでits developmentとなる。整序の該当箇所はWhat(コ) supported(カ) its(オ) development(ウ) was(ケ) the(キ) close(ア) connection(イ)となる。
- (B) 整序問題。比較級 than Aが基本構造。「はるかに」と比較級を強調するのはfar。後半に目的を表す不定詞in order to doを続ける。整序の該当箇所はis(カ) far(イ) more(キ) important(エ) than(ケ)...in(オ) order(ク) to(コ)となる。
- (C) 和文英訳問題。全体の構造は「～して初めて...する」なので、It is not until S' V'~ that S V ...の構文を用いればよい (It is only if [only when] S' V' ~ that S V ...なども可)。S' V'~の部分はyou have the confidence [conviction] or belief that ...と同格名詞節のthat節が続く形にするか、you are convinced or believe that...と動詞+目的語のthat節の形にする。「謎」はriddle, enigmaなどもあるが一番わかりやすいmysteryを用いるのが無難。「人知」はhuman intelligence(intellect)。「ひるむ」はshrinkなどが思い浮かばなければ、「ためらう」hesitateなどを用いて表現すればよい。「問題に向かって行く」は大問2下線部(B)で分詞構文になっていたface problemsを用いればよい。

2 合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（%）予想

【文系】

文学部	60%
教育学部	60%
法学部	65%
経済学部	60%

【理系】

理学部	65%	歯学部	65%
医学部	80%	薬学部	65%
保健／看護	60%	工学部	65%
" 放射線	60%	農学部	65%
" 検査	60%	経済学部	65%

3 来年受験する生徒へのアドバイス

昨年度に引き続き、長文読解では本文全体の趣旨を適切に把握する要約能力と個々の英文を正確に理解する精読能力の両方が要求されている。特に今年度はⅠとⅣで科学における理解・人間知性のあり方が主題として取り上げられており、そこから出題者のメッセージを読み取ろう。科学の分野だけではなく、英文を読解し解答作成するにあたっても、機械的に一つ一つの単語を英語から日本語に置き換えるのではなく、重要な語句に込められた意味を前後の文脈から理解しつつ、その意味内容を反映した適切な訳語を探す作業が欠かせない。クイズ形式の単語アプリやAIを利用した機械翻訳に依存するのではなく、長文の論理展開を自分の頭で追思考しながら英語を学ぶようにしたい。また、Ⅲ、Ⅳのように英語での解答が求められる問題に対応するためには日常的な英作文練習が欠かせない。制限時間内に文法語法的に正確な英文を書くためには、わかりにくい日本語の言い回しを噛み砕き、平易な英語表現を自然と使いこなせるような練習を積み重ねることが重要だ。